

Identities and Rugby II :spirit

社会生活の中で「スクラムを組んで・・・」とか「タックルしよう」と言えば、格別の情熱をもって物事にとり組むこととなります。それらの言葉の源であるラグビー精神についても、敢闘精神と簡単に置き換えられるに終わっています。ラグビー精神について考えることはプレーを始めるのに特に必要なものではないのですが、永く続けている内に自分の人生・生き方に影響することですので、おろそかにすることはできません。年を経て後悔することのないように、早い時期に学び自分自身のこととして考えておくことが大切です。今日までラグビーを育ててきた先輩たちは、ラグビー精神について教えられ豊かな人生を送る糧として生かしてきました。Law Book にはラグビー憲章が掲げられています。改めて RFU の資料を読み直して [訳文 A~I] と考察によってラグビー精神の再発見に努めましょう。



INJURY PREVENTION 1

Supported by
MONTEDISON GROUP
FARMITALIA CARLO ERBA LTD

A Applause for the opposition and the referee after the game is warm and genuine; it takes two sides plus the referee to create an enjoyable game.

B Remember, it is a game played for fun, to make friends; it is not so much the winning or losing but the playing that is important. Especially is this so with young people; encourage them to enjoy themselves; winning with modesty as if used to it; losing with dignity and after the game the fun continues, friendships are created.

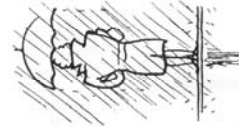
the spirit of rugby

C The rules of the game of Rugby Football are known as Laws, but these Laws mean less to the game than a long-established, accepted spirit in which the game is played and supported. You will not find all the following in the Law book, but you will find them all in the hearts and minds of true rugby supporters.

D The referee's decision is accepted without question on the field of play. After the game, let discussion begin over tea! With the referee!! Remember, he is not paid, and serves the game as his enjoyment.



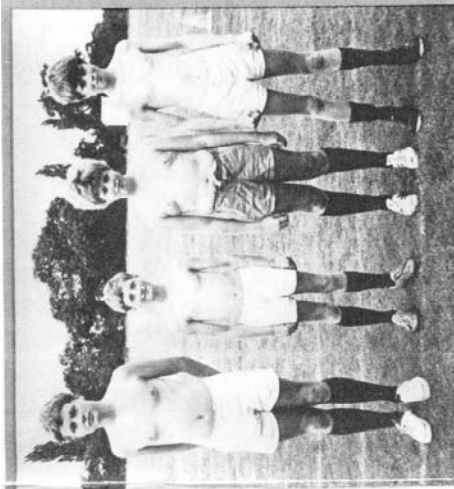
F From the touchline, we treat the opposition at times of success or tension as we would our own side, e.g. we applaud (if a little less loudly) their good tries; we are silent for their place kicker.



E Retaliation plays no part in our game; restraint is a lesson well learnt and practised.



G Shouts from the touchline encouraging any form of violence or practice against the Laws are NOT to be heard, e.g. 'put the boot in', 'kill him', etc.



H These boys are all 11 years of age!

REMEMBER SKILL & NOT PHYSIQUE SHOULD DOMINATE THE LEARNING PROCESS

I

Rugby is a strenuous physical contact game incorporating running, handling, kicking and contact. Simple safety precautions should be considered to ensure adequate protection for all participants.

Illustrations by Fougasse

- A: [試合後、相手プレイヤーとレフリーを称賛することは温情と誠意を表わすものです。それは、両チーム プラス レフリーが楽しい試合を創造する原動力となるものです。]
レフリーが no side を宣言すれば、each side で戦った 2 チームが一集団になって相手とレフリーを称賛し感謝の念を表わすというマナーは、大切なこととして守られてきました。それは平素から good, bright, interesting game を志向する心とゲーム中は恥ずかしくないプレーをしていなければ、形だけのものになってしまっただけで心からできないものです。プラスレフリーという表現は、同じ目標に向かって同行してくれる人への信頼と感謝の心を示すものです。これらのことは、いろいろなスポーツでそれぞれに行われることですが、ラグビーが strenuous physical contact game だからこそ、最も求められ大切にしてきたものです。
- B: [覚えておいて下さい。ゲームは友人をつくり楽しむためにするものです。勝ち負けにこだわらずプレーすることが重要です。]
とりわけ若い人たちはそうなりがちですが、彼ら自身が楽しむように彼らを励まし、特に変

わったところのないいつものふうに勝利を喜び、敗れても悪びれず試合の楽しさを持ち続けることが友情を生み出すのです。

勝つために全力で戦い勝利を喜び敗戦を悔しがめることは当然のことです。その程度の問題なのです。特に若い人は興奮を抑えきれず度を越してしまいがちで、あふれる感情をさわやかに表現するのまで批難するのではなく、誇張するのをいましめているのです。A 項と同じように平素の心構えの違いが行動に現われるものです。good loser という意味深い言葉がありますが、ゲームを楽しむために大切なことです。

- C: [ラグビーのルールは Law としてよく知られています。ルールは永い間にわたって代々うけつがれ今日に至っていることや受け入れられ支持されていることを言葉に表わして書かれていませんが、Law Book の中にあなたはラグビー愛好者としての心の中に次のような精神の凡てを見出すことになるでしょう。]

ラグビー精神は特に文章として直接的に表わされていませんが、Law の中味に盛られているのです。ルールを守るということは、文字に書かれている規定を守るということだけではなく、そのルールが話し合われ改訂されてきた過程を学び、ルールが志向するものを達成するように努めることです。

- D: [レフリーの決定はフィールド上では質問することなしに受け入れる。ゲーム後、茶話会等で話し合いするようにすることです。その時、レフリーは無報酬でやってくれていること、彼は彼の楽しみとしてレフリーに携わっていることを忘れてはなりません。]

プレイヤーに一方向的に「レフリーの決定には従わなければならない。」と強権的義務的に言うことは正しい指導者ではありません。それでは心から正しくルールを守ることが実行できない心配があります。ラグビーはお互いの友情や信頼を大切に作る競技であり、それが楽しさの源泉だと考えられているのです。

- E: [報復のプレーは私たちの試合にないのです。抑制することは学び身につけるべき重要な教訓の一つです。]

プレイヤーが正当なプレーとして振り上げた手が偶然に相手の顔に当たり、結果的になぐったと同じようなことになり、怒りにつながることが絶対には言えません。身体の接触する競技はお互いの precaution 前もっての心構えが必要です。ラグビーは strenuous physical game です。楽しくする必須条件は retaliation の絶体否定です。

- F: [タッチラインから味方が達成したかのように相手の奮発の成果をほめる。例えば（あまり大きな声でないと）相手のすばらしいトライをほめる。そして、ゴールキックの間キッカーのために静かにしている。]

ノーサイドの時のプレイヤーのマナーは A で示されました。観衆やチーム関係者も、試合中の相手のプレーについてほめるマナーは、純粋にゲームを愛する人のマナーです。このマナーは本当にラグビーを楽しむ心を育てるのに役立ちます。

- G: [タッチラインからの大声の応援で Law に違反する乱暴やよくないやり方、例えば踏みつけよとか殺してしまえといった勇気づけもあってはならないものです。]

ラグビーではタッチラインからのゲーム関係者の指示はしないことになっています。チーム監督はスタンドで観戦するのです。これらは、キャプテン中心に発想を生かして戦うラグビーの原点の表われです。-

- H: [これらの少年は皆 11 歳です。教えるべきことはすべて学んで身につけたことによって次にすることを決められるべきであって、体格によって決められるべきでないことを忘れてはなりません。]

4 人の少年の写真は、年齢、体格、男女を問わず凡ての人が楽しめる競技であることを表わしています。

- I: [ラグビーはランニング、ハドリング、キッキングとコンタクトを内容とする奮闘的身体接触する競技です。確実純然たる予防策が凡ての参加者のために保護が講じられるようになければなりません。]

strenuous=making or requiring great 激しくぶつかり合い激しくボールをとり合うことを奮闘的と訳しました。simple は簡単な、ではなく、是非必要で兼ね合いのできない、という意味です。

考察

ラグビー精神について何も知らないままでも結構楽しいものです。しかし、知っているのと知らないのでは違いは大きくて、楽しさの中味や普及にもいろいろと影響します。ラグビー精神については Law Book に言葉として殆ど書かれていません。しかし、永い年月の間多くのプレイヤーたちがプレイヤーとしてやるべきこと心がけるべきことを思想として育んできました。私たちはそれを学び受けつぎ、更に育てていかなければなりません。資料に書かれているものが凡てではありませんが、これらを足がかりにして、ラグビーを一語で表わせば enjoyment と言われている言葉通り、楽しむ精神・楽しむマナーを育てていきましょう。

追記

ラグビー憲章については西川ラグビーコラムを参照に考察してください。

2011.09.18

西川 義行